

School of

Contemporary

organized by



MAKING
MAD
DIFFERENT

aikanyama

Curation Practice

Cultural Policy Now in Japan: Fumihiko Sumitomo, AIT

Mapping Curation: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

History of Curating: Roger McDonald, AIT

Organizing and Managing an Art Exhibition: Yuko Ozawa, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

What Makes a Curator Today?: Yuko Hasegawa, Chief Curator, MOT

Social Space and Curating: Keisuke Ozawa, AIT

The Changing Conditions of Art: Taro Amano, Chief Curator, Yokohama Museum of Art

Curating Inside / Outside the Museum: Shihoko Iida, Curator, Tokyo Opera City Art Gallery

Postwar Japanese Art History and Curatorial Practices: Fumihiko Sumitomo, AIT

International Exhibitions Today: Fumio Nanjo, Director, Mori Art Museum

Exhibition as Knowledge Production: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

Curation Basic

Cultural Policy Now in Japan: Fumihiko Sumitomo, AIT

Mapping Curation: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

History of Curating: Roger McDonald, AIT

Organizing and Managing an Art Exhibition: Yuko Ozawa, AIT / Keisuke Ozawa, AIT

What Makes a Curator Today?: Yuko Hasegawa, Chief Curator, MOT

Social Space and Curating: Keisuke Ozawa, AIT

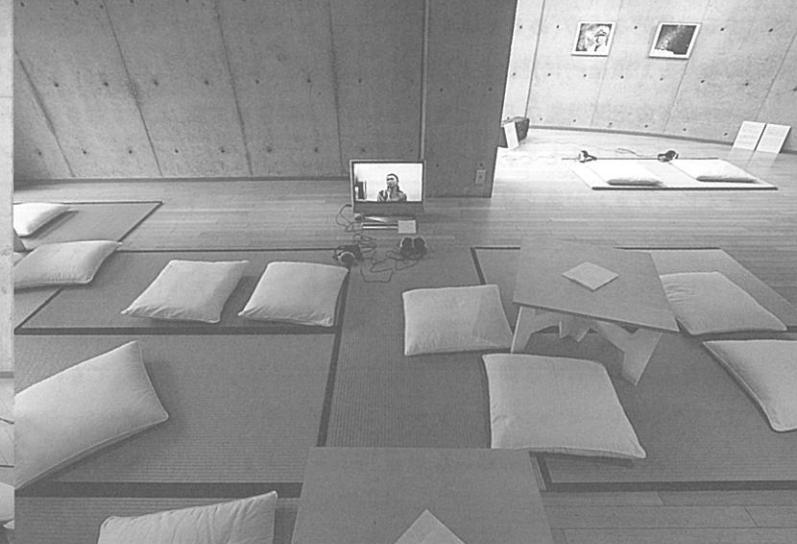
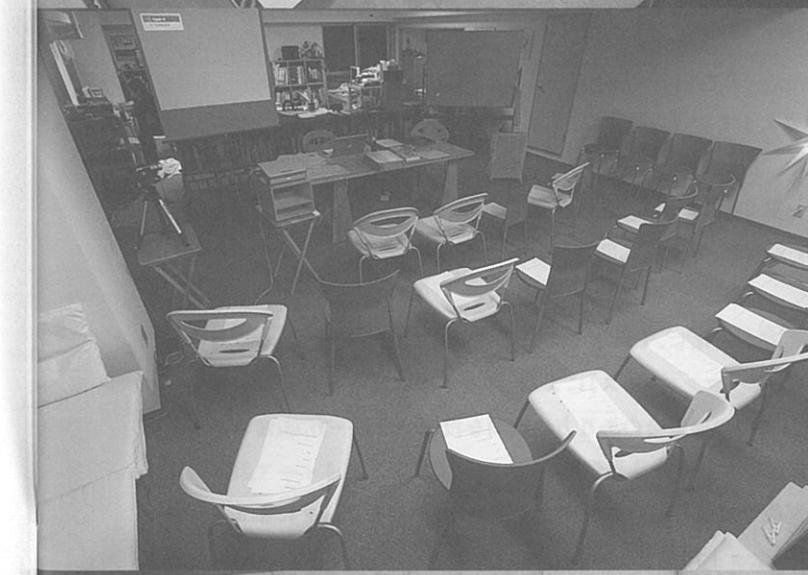
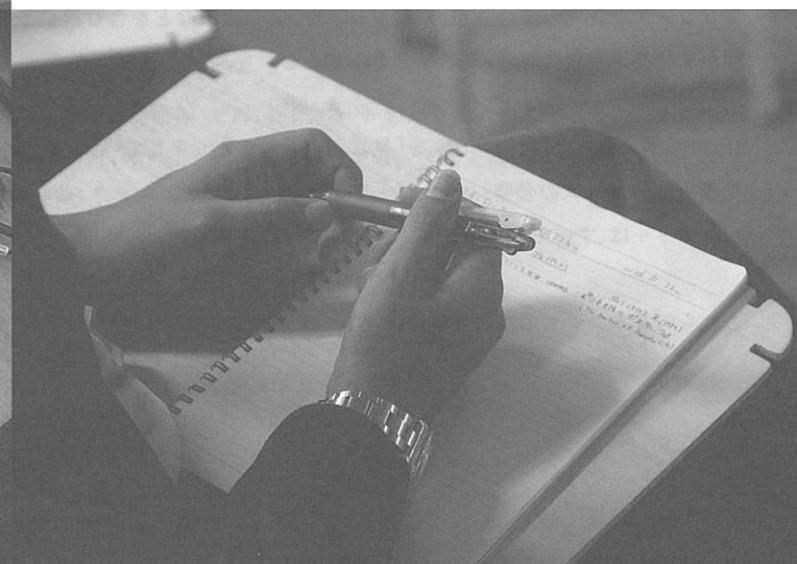
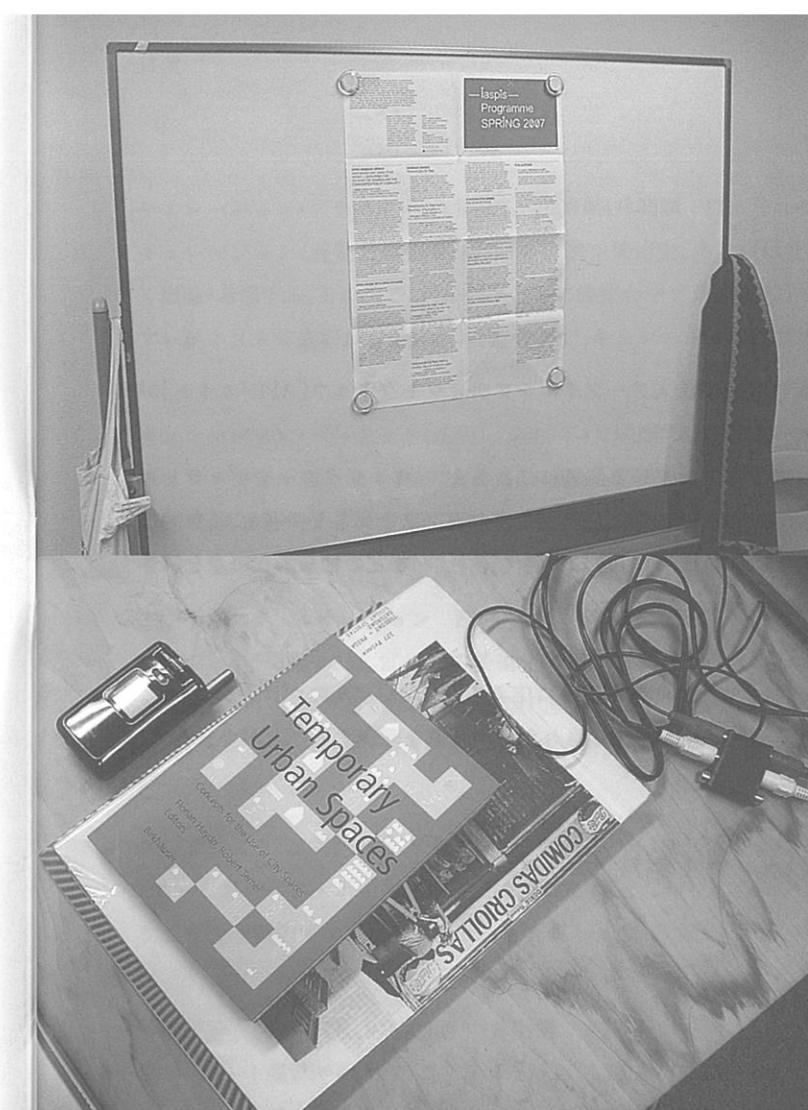
The Changing Conditions of Art: Taro Amano, Chief Curator, Yokohama Museum of Art

Curating Inside / Outside the Museum: Shihoko Iida, Curator, Tokyo Opera City Art Gallery

Postwar Japanese Art History and Curatorial Practices: Fumihiko Sumitomo, AIT

International Exhibitions Today: Fumio Nanjo, Director, Mori Art Museum

Exhibition as Knowledge Production: Roger McDonald, AIT / Keisuke Ozawa, AIT



MADとは

MAD(Making Art Different=アートを変えよう、違った角度で見てみよう)は、NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]が2001年に開講した、独自の講義と現場の議論を重視するエデュケーション・プログラムです。

2008年度のMADは、国際的なアート界の複雑な構造と社会の関係、そしてそこで起こっている議論に注目します。キュレーター・ギャラリスト、アーティスト、美術評論家、建築家など、国内外で現代アートの現場に携わっている、知識と経験が豊富な専門家をゲストに迎え、多角的なアプローチを実現しています。現代アートを、文化政策などを含む社会や経済の動き、また「日常」や「現代」、「社会」などの抽象的な概念を解き明かす社会学や現代思想・哲学などを踏まえながら、より広く深く体系的に読み解いてゆきます。

5つの基本コースは、現代アートを「見る」から「考える」、そして「活かす」まで、さまざまな知的好奇心に応える大学院レベルのプログラムです。受講生は各コースの必修レクチャーのほかに、「フリー・ブロック」とよばれる選択講座から指定された数の講座を受講することができます。レクチャーは、すべてAITルーム(代官山)で行われます。

これらの基本コースのほか、「集中講座」と「デイタイム講座:アート・オーディエンス」を開講しています。

キュレーション

時代や社会状況とともに変化を遂げる「キュレーション」の問題と可能性を考えます。

「キュレーション」という言葉を知っていますか？その語源は、一説にラテン語で「保護する」という意味の「キュラーレ」に由来すると考えられています。美術館という制度が確立した19世紀には、美術品などを「保護すること」とそれに関連づけられる収集・分類・公開などの作業の総称として「キュレーション」と呼ばれるようになりました。

20世紀後半になると、社会の変遷とともに「キュレーション」についての考え方も変化し、それまでの分類や系譜による研究・展示以外の方法を積極的に追求するものが見られるようになりました。1960年代のハーラード・ゼーマン(スイス)による「態度が形になるとき」展は、今いうアーティスト・イン・レジデンスと展覧会を組み合わせた実験的なもので、それまでの展覧会のあり方に疑問を投げかける一方で、キュレーションの可能性を広げたといわれています。

今日では、キュレーションは実にさまざまな形で取り組まれています。世界規模で成長し続けるマーケットでは、アートフェアにキュレーターが参加するプログラムがあり、1990年代以降増加傾向にある国際展では、マーケットの動きと近接しているものから、哲学的なテーマを追究する学術的なもの、あるいは教育プログラムを組み込んだものまで、その形式と内容の振り幅は大きくなっています。また、欧米では、美術館のあり方が積極的に見直され、展示のみならず、デザインや音楽、哲学思想の領域を横断するプログラム作りや、図書館やカフェ、クラブ、ラウンジなどの空間機能などの充実が図られ、「新美術館主義」という動きを生み出しています。さらに、コミュニティー形成・再生を目的としたアートプロジェクトとして、人口が減少傾向にある里山やシャッター通りなどから、都市部における廃校やオフィスまで、特殊な空間で行われるキュレーションが多く見られるようになってきています。

キュレーションは、単純に「集めた作品を見せる場を設定する」ことではなく、表現されたものと社会や時代性との関連を、さまざまな方法をとおして探る行為です。新自由主義やポストコロニアル(植民地主義以降)、地域創造、格差社会、アイデンティティの探求、分野・領域の横断など、時代を彩る言葉が踊る現代において、キュレーターは、展覧会やプロジェクト、また文章や対話などをとおして、新たな知やさまざまな議論を人々と共有する環境を作り出さなければならないといってもいいでしょう。

MADのキュレーション・プラクティス(実践)、キュレーション・ベーシック(基礎)では、現代アートと社会状況との関係性をふまえ、世界各地で起こっている議論を参照しながら、キュレーションの可能性を探ります。

キュレーション・プラクティス(実践) 2008年4月開講 12ヶ月コース

キュレーション(展覧会の企画・制作)の理論や美術史、あるいは社会学や哲学思想などをとおして、今日のキュレーションについて広く議論・考察する。その上で、グループごとに展覧会やプロジェクトの企画立案を行い、実現することを目的とするコース。テーマの設定、アーティストの選択から予算組み、運営まで、キュレーションに関する必要不可欠な作業を総合的に経験する。

キュレーション・ベーシック(基礎) 2008年4月開講 12ヶ月コース

キュレーションの理論や美術史、あるいは社会で起こっている議論などをとおして、現代アートと時代や社会との関係性を考える。その上で、キュレーションにおけるテーマや形式の可能性、あるいは美術史やアーティストの解釈についての研究を行い、発表するコース。

アート+コミュニケーション 2008年4月「美術史編」、9月「公共と美術編」開講 各4ヶ月コース

前期の「美術史編」では、20世紀の美術史の基礎知識を身につけ、後期の「公共と美術編」では、現代アートをより多くの人々と分かち合う方法について考える。また、東京都現代美術館においてワークショップを行い、アートの現場を体験する。「美術史編」のみ、「公共と美術編」のみ、あるいは両方の3パターンで受講可。

アーティスト 2008年4月、9月、2009年1月開講 各3ヶ月コース

「アート界」や「アーティストの自立的な活動」などについてのレクチャーと、キュレーター・美術評論家、アーティストなどをゲストに交えて行う模擬プレゼンテーションをとおし、作品の理論的バックアップやプレゼンテーションスキルを学ぶ。

マガジン 2008年4月、9月、2009年1月開講 各3ヶ月コース

海外のアート雑誌やウェブの英文記事を読み、議論を行うことで、世界各地で展開する現代アートの「いま」を読み解く。アートマーケットの情報や、独特的な視点で書かれているアーティスト評や展覧会評などで、日本の美術雑誌ではなかなか触れることのできないアート的一面に迫る。

フリー・ブロック

フリー・ブロックは、MADの5つのコースに共通した選択講座。現代アートを理論的・実践的に考えてゆく上で重要となる専門的な研究やスキルを網羅的に取り上げる。受講生は、コースと期間に応じて科目を選択し、受講することができる。(フリー・ブロックのみの受講は不可)

集中講座 New

短期間に特定のテーマについて専門的な知識を習得したい方を対象としたコース。5つのテーマについて、各3回の講義が行われる。

デイタイム講座:アート・オーディエンス New

気軽に現代アートを楽しみたいという方、美術展をグループで鑑賞し意見交換をしたい方を対象に、新設されたコース。

MAD 2008 概略図

5つのコースとフリー・ブロックが一目で見渡せる全体図

スタッフ

MAD2008を運営しているAITのスタッフ紹介

MAD2008 ゲスト・レクチャラー／集中講座 ゲスト・レクチャラー

コース概要 MAD2008の各コースと集中講座、デイタイム講座の概要

修了生の声 MADを修了した学生・社会人の今を紹介

「キュレーション・プラクティス(実践)」は、2008年4月から2009年3月にかけて開講されるコースで、キュレーションの歴史や理論、美術史や社会学、哲学思想などをふまえて、グループで展覧会を実現することを目的とするコースです。

このコースは主に、将来キュレーターとして現代美術の分野に専門的に携わりたい学生や社会人、さまざまな空間や規模で展覧会作りの現場に具体的に取り組もうとしている方、海外留学を考えている方、キュレーションに興味のあるアーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成

必修レクチャー:11回
フリー・ブロック:25回
チュートリアル(展覧会企画制作のためのワークショップ):10回

キュレーション・プラクティス(実践)・キュレーション・ベーシック(基礎) 共通 必修レクチャー

○日本における現代の文化政策 住友文彦(AIT)

18世紀に啓蒙の装置として生まれた美術館ですが、現在、世界を席捲する新自由主義の影響のなかで制度的な変革を迫られています。指定管理者制度の導入などを例に、美術館の運営や芸術と社会の関係性の諸問題に触れます。

○キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

1969年のハラルド・ゼーマン(スイス)による「態度が形になるとき」展や1989年のジャン・ユベル・マルタン(フランス)による「大地の魔術師たち」展などをとおして、実験的な展覧会から国際展まで、キュレーションの古今東西を体系的に考えます。

○キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド

16世紀の「好奇のキャビネット」から1793年のルーブル美術館の誕生、マルセル・デュシャンの実践などをとおして、変化・変容を遂げるキュレーションを考察し、その現在のあり方を議論します。

○展覧会の企画立案と管理進行について 小沢有子／小澤慶介

展覧会の企画はどのように立てるのか、そしてどのように資金を調達し、運営を行ってゆくのか。実際に行われた展覧会を事例にしながら、展覧会作りの業務を総合的に解説します。

○キュレーターに求められる資質 長谷川祐子(東京都現代美術館 事業企画課長)

作品や美術史のみならず、時代や社会に対しても洞察し、展覧会やプロジェクトをとおして「現代」という意識や社会的枠組みを鋭く読み解くキュレーターの力について、具体的な展覧会を参考に考察します。

○社会空間とキュレーション 小澤慶介

展示室、紙上、インターネットなど、物理的なものからサイバーなものまで、アートのプロジェクトは必然的に「社会空間」に開かれています。社会学や哲学思想を参照に、「社会空間」とキュレーションの関係性を読み解きます。

○変化するアートの現場 天野太郎(横浜美術館 主席学芸員)

指定管理者制度の導入によって運営形態とプログラム作りが変化している横浜美術館の現況と、美術館の外で行われる黄金町のアートプロジェクトをとおして、横浜で起こっているアートの現場の変化について考えます。

○キュレーションの実践、美術館の内と外 飯田志保子(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

東京オペラシティアートギャラリーでの展覧会と国際交流基金主催によるプロジェクトのキュレーションを比較しながら、それぞれの目的と形式、内容の違いに注目し、キュレーションの相対化を試みます。

○日本の戦後美術史とキュレーション 住友文彦(AIT)

実験的、あるいは前衛的な展覧会が多く見られた1960年代から国際化へ向かう1990年代の展覧会をとおして、日本の戦後美術史を通観します。その上で、今日のキュレーションについて考えます。

○国際展の現在 南條史生(森美術館 館長)

都市や国が主催する国際展は、少なからず政治性を帯びた表象の場となります。そのテーマや作品は誰に向かられているのでしょうか。2008年のシンガポールビエンナーレの芸術監督が、同年に開催されるアジアの国際展に焦点を当てながら考えます。

○知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

表現方法、価値観、言語が行き交う場であり、新たな知や誤解が生まれる文化装置としての展覧会、あるいは作品の政治性について考察します。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心やグループでのキュレーションの方向性を深めるための専門的な講座です。キュレーション・プラクティスの受講生は25回のフリー・ブロックに参加することができます。テーマはP10-P11を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。

「キュレーション・ベーシック(基礎)」は、2008年4月から2009年3月にかけて開講されるコースで、1年をかけてキュレーションの歴史や理論、美術史や社会思想など、今日の現代アートのキュレーションを支えている状況を理解した上で、過去現在を問わずアーティストや展覧会、アートの運動などから選んだ関心事について調べ、プレゼンテーションするコースです。

キュレーションと社会の関係について時間をかけて考えてみたい方、あるいは海外留学を考えている方、キュレーションに興味のある社会人、学生、アーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成

必修レクチャー:11回
フリー・ブロック:20回
プレゼンテーション:3回

キュレーション・プラクティス(実践)・キュレーション・ベーシック(基礎) 共通 必修レクチャー

○日本における現代の文化政策 住友文彦(AIT)

18世紀に啓蒙の装置として生まれた美術館ですが、現在、世界を席捲する新自由主義の影響のなかで制度的な変革を迫られています。指定管理者制度の導入などを例に、美術館の運営や芸術と社会の関係性の諸問題に触れます。

○キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

1969年のハラルド・ゼーマン(スイス)による「態度が形になるとき」展や1989年のジャン・ユベル・マルタン(フランス)による「大地の魔術師たち」展などをとおして、実験的な展覧会から国際展まで、キュレーションの古今東西を体系的に考えます。

○キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド

16世紀の「好奇のキャビネット」から1793年のルーブル美術館の誕生、マルセル・デュシャンの実践などをとおして、変化・変容を遂げるキュレーションを考察し、その現在のあり方を議論します。

○展覧会の企画立案と管理進行について 小沢有子／小澤慶介

展覧会の企画はどのように立てるのか、そしてどのように資金を調達し、運営を行ってゆくのか。実際に行われた展覧会を事例にしながら、展覧会作りの業務を総合的に解説します。

○キュレーターに求められる資質 長谷川祐子(東京都現代美術館 事業企画課長)

作品や美術史のみならず、時代や社会に対しても洞察し、展覧会やプロジェクトをとおして「現代」という意識や社会的枠組みを鋭く読み解くキュレーターの力について、具体的な展覧会を参考に考察します。

○社会空間とキュレーション 小澤慶介

展示室、紙上、インターネットなど、物理的なものからサイバーなものまで、アートのプロジェクトは必然的に「社会空間」に開かれています。社会学や哲学思想を参照に、「社会空間」とキュレーションの関係性を読み解きます。

○変化するアートの現場 天野太郎(横浜美術館 主席学芸員)

指定管理者制度の導入によって運営形態とプログラム作りが変化している横浜美術館の現況と、美術館の外で行われる黄金町のアートプロジェクトをとおして、横浜で起こっているアートの現場の変化について考えます。

○キュレーションの実践、美術館の内と外 飯田志保子(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

東京オペラシティアートギャラリーでの展覧会と国際交流基金主催によるプロジェクトのキュレーションを比較しながら、それぞれの目的と形式、内容の違いに注目し、キュレーションの相対化を試みます。

○日本の戦後美術史とキュレーション 住友文彦(AIT)

実験的、あるいは前衛的な展覧会が多く見られた1960年代から国際化へ向かう1990年代の展覧会をとおして、日本の戦後美術史を通観します。その上で、今日のキュレーションについて考えます。

○国際展の現在 南條史生(森美術館 館長)

都市や国が主催する国際展は、少なからず政治性を帯びた表象の場となります。そのテーマや作品は誰に向かっているのでしょうか。2008年のシンガポールビエンナーレの芸術監督が、同年に開催されるアジアの国際展に焦点を当てながら考えます。

○知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

表現方法、価値観、言語が行き交う場であり、新たな知や誤解が生まれる文化装置としての展覧会、あるいは作品の政治性について考察します。

フリー・ブロック:必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心やグループでのキュレーションの方向性を深めるための専門的な講座です。キュレーション・ベーシックの受講生は20回のフリー・ブロックに参加することができます。テーマはP10-P11を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。

「アート+コミュニケーション」は、2008年4月に美術史編、9月に公共と美術編、それぞれ4ヶ月のコースが開講されます。前期の「美術史編」では、絵画やインスタレーションなど現代アートの基礎知識を習得します。また、後期の「公共と美術編」では、「文化政策」や「地域」あるいは「教育」をキーワードに現代アートと社会のつながりについて具体的に考えることを目的としています。

美術史編、公共と美術編では必修レクチャーの内容が異なります。また通年で受講することにより、現代アートと社会の関わりがより体系的に習得できるようにプログラムされています。

このコースは主に、美術と社会をつなぐエデュケーターとしてアートに携わりたい学生や社会人、現代アートの歴史を学びたい方、自立的なアート活動などに関心がある方、アーティストやアート・マネージャーなどを対象としています。

コースの構成

[前期]美術史編／[後期]公共と美術編

必修レクチャー：各6回

フリー・ブロック：各10回

アート+コミュニケーション 必修レクチャー+ワークショップ

[前期]美術史編

○現代アートとは何か？ 小澤慶介／ロジャー・マクドナルド

「現代アート」とは一体どのようなものなのかという問い合わせから考え始めます。歴史学や社会学などを参考し、同時代の社会に対する議論を踏まえて、アートの現代性を考えます。

○20世紀の絵画 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

絵画の200年の基本的な歴史を、写真や映像など他の表現メディアとの関係性において考察します。19世紀のロマン主義から20世紀中ごろの抽象表現主義、そして現代へと駆け抜けます。

○インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド

空間を作品化するインスタレーション。20世紀初めのダダやロシア構成主義の活動から90年代以降の「関係性の美学」に見る作品までを通覧します。またサイト・スペシフィックなどの概念にも触れます。

○建築・都市・アート 五十嵐太郎(建築評論家)

戦後の東京における都市空間の形成と建築の変容を、アーティスト、彦坂尚嘉の皇居を巡るアートプロジェクトをとおして考えます。都市空間を運動するものとして捉えることで、空間と建築に対するもう一つの理解を試みます。

○写真と映像の歴史 杉田敦(美術批評家／女子美術大学准教授／オルタナティブ・スペース art & river bankディレクター)

1830年代に到来したといわれる写真術と19世紀の終わりに実現した映像表現。「瞬間」や「持続する時間」の表現、そして複製可能といったメディアの特性が芸術に与えた影響についても考えます。

○ビデオアートと視覚文化 小澤慶介

1960年代にアートの表現として確立したといわれるビデオアート。テレビや映画などの視覚文化産業がもたらす時間や社会空間の感覚に対する関係を明らかにしながら、その可能性を考えます。

[後期]公共と美術編

○オルタナティブ・スペースの歴史 小澤慶介／ロジャー・マクドナルド

ギャラリーや美術館以外で行われてきたアートの活動について概観します。1970年代のニューヨークや、1990年代以降の日本の状況などをとおして、アートにおける「第3の道」を考えます。

○地域を活性化するアートプロジェクト 木ノ下智恵子(大阪大学コミュニケーションデザインセンター 特任講師／神戸アートビレッジセンター 美術プロデューサー)

人口や面積、交通網、経済活動などの要素によって多様を極める「地域」とアートの関係について、大阪大学と企業とアートNPOによる共同プロジェクトや神戸アートビレッジセンターのプログラムをとおして考えます。

○日本の文化政策とアート 吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

国立美術館等の独立行政法人化、指定管理者制度の導入、公益法人制度改革など、近年、アートを取り巻く環境は大きく変化しています。こうした制度の概要と文化政策の潮流を解説しながら、アートの役割や美術館の将来について考えます。

○展覧会と物語づくり 小澤慶介／ロジャー・マクドナルド

作品と作品の関係性によってテーマを表す展覧会は、作品をとおして物語を生み出していると見ることができます。実際に行われた展覧会を参照し、物語作りとそれを鑑賞者に伝えてゆく方法について考えます。

○パブリック・プログラム ワークショップ@東京都現代美術館 郷泰典(東京都現代美術館 教育普及係 学芸員)

ギャラリーガイドやワークショップなど、パブリック・プログラムが充実している東京都現代美術館。実際に展示してある作品を用いて、現代アートと来館者をつなぐプログラム作りを体験します。

○アートとコミュニティー 池田修(BankART1929 代表)

公設民営の新しい可能性を探るアートスペースとして定着してきたBankART。アート、建築、ダンス、音楽などさまざまなプログラムが行われる「場」作りについて、横浜市の創造都市事業と共に考えます。

フリー・ブロック：必修レクチャーで得た知識を補完し、さらに受講生各自の関心を深めるための専門的な講座です。アート+コミュニケーションの受講生は、「美術史編」、「公共と美術編」それぞれ10回ずつ選択し参加することができます。前期・後期をとおして受講する方は、全部で20回のフリー・ブロックに参加できます。テーマはP10、P11を、スケジュールはP14-P19をご覧ください。「美術史編」の受講生は、4月から7月までのフリー・ブロックのみを選択できます。「公共と美術編」の受講生は、9月から12月までのフリー・ブロックのみを選択できます。※補講、フリー・ブロックの交換などはできません。

「アーティスト」は、自立した活動を行うことを目指しているアーティストを対象にした3ヶ月のコースで、2008年4月、9月、2009年1月に開講されます。作品やプロジェクトを社会に出してゆくために必要となるスキルや考え方を6回の必修クラスをとおして習得します。美術は、アーティストによってのみ生み出されるものではなく、アーティストやギャラリスト、キュレーター、評論家、その他アート界に関係のある人々や企業、そして鑑賞者の関係が複雑に織り成す運動体と考えることができます。作品やプロジェクトを客観的に眺め、周囲の人々と自分の関心を共有するためのコミュニケーションを探る一連のプロセスを、キュレーターやアーティスト、受講生たちとの対話をとおして組み立ててゆきます。このコースは主に、アート界について知識を得たい、自分の作品を客観的に見つめ直す機会を持ちたい、作品と社会の関係性を探りたい、海外の美術系大学への留学を考えているという方を対象としています。

コースの構成

必修クラス:6回

フリー・ブロック:3回

必修クラス

○アート界のマッピング：アート界の構造と人の動きについて概観し、受講生は議論を通して各自の戦略を考えます。またプレゼンテーションのツールとなるファイルの作り方のアドバイスも行います。

○プレゼンテーション1：受講生各自、作品やプロジェクトについてプレゼンテーションを行います。表現方法やコンセプト、また美術史や社会との関係性について簡潔に伝えるスキルを身につけます。

○作品講評+セミナー1、2、3：作品について、コース・ディレクターが批評し、受講生同士の意見交換をします。また作品に関連するテーマについてセミナーを開き、知識や意見を共有します。3回に分けて行うことにより、各受講生の活動や作品について十分な時間をかけて考察します。

○プレゼンテーション2：プレゼンテーション1で得られたアドバイスを踏まえつつ、キュレーター、アーティスト、美術評論家などをゲストに招き、実践ながらのプレゼンテーションを行います。

過去のゲスト

最終回では、専門家に対する各自のプレゼンテーションを行います。これまでに以下の方々を招いて行われました。

飯田志保子氏(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)／杉田敦氏(美術批評家)／住友文彦氏(東京都現代美術館 学芸員／AIT)

保坂健二朗氏(東京国立近代美術館 研究員)／森弘治氏(アーティスト)ほか

「マガジン」は、世界の現代アートの「いま」を知るための3ヶ月のコースで、2008年4月、9月、2009年1月に開講されます。

日々刻々と変化する現代アートの世界。海外の美術雑誌には、話題になった美術館やギャラリーでの展覧会のほか、オークションや国際展、あるいは最新のアートの動向などが紹介されています。また近年の絵画や映像作品の傾向、さらにはファッションや音楽と美術といった分野を横断する表現の現況が伝えられています。毎回、海外の美術雑誌やウェブページから新鮮で有効な情報や話題、視点を提供し、議論をとおして美術表現を多角的に読み解いてゆきます。

このコースは主に、リアルタイムな世界のアート、注目のアーティストや新しい美術館の動き、話題となった展覧会、アートマーケットの動向などについて知識を得たい社会人、学生、アーティスト、コレクターを対象としています。

コースの構成

必修クラス:6回

フリー・ブロック:3回

雑誌の例

Art Asia Pacific(アメリカ)

Art Forum(アメリカ)

Art in America(アメリカ)

Frieze(イギリス)

Contemporary(イギリス)

Art Monthly(イギリス)

Art Newspaper(イギリス)

Tema Celeste(イタリア)

Parkett(スイス)

YISHU(中国)

Art in India(インド)など

テキストを読む

○ダグラス・クリンプ 「美術館の廃墟に」(4月23日／5月1日):小澤慶介

ミシェル・フーコーの著書「監獄の誕生」に影響を受け、1980年代中頃にオクトーバー誌に発表された、「美術館」を権力の装置として批判的に読み解いた論考を読みながら、今日の美術館について考えます。

○クレア・ビショップ 「対立と関係性の美学」(6月3日／6月17日):ロジャー・マクドナルド

1990年代以降アート作品の形式として一般化した「参加型」の作品を理論化し、美術の枠組みに位置づけたニコラ・ブリオー(Nicolas Bourriaud)。その「関係性の美学」(Relational Aesthetics)を批判的に読み解いた良文を紹介します。

○ミシェル・ド・セルト 「日常的実践のポエティック」(11月12日／11月27日):ロジャー・マクドナルド

どのようにしたら、目に見えない権力に抑え込まれずに生きてゆけるのか。産業化、あるいは権威化される社会空間における「日常」という概念を積極的に分析したテキストを読みます。

○オクヴィ・エンヴェゾー 「場作り、あるいは『場違い』な場に:コンテンポラリー・アートとポスト-コロニアルな状況」(2009年1月15日／1月29日):小澤慶介

ドクメンタ11(ドイツ／2002)など、国際的に活躍するキュレーターによる論考。「場」を生み出すというアートの性質をめぐり、植民地主義以降のアートのあり方とそれが引き起こす議論について考えます。

○ジャック・ランシエール 「美の政治学」(2009年3月10日／3月19日):ロジャー・マクドナルド／小澤慶介

美学の重要性と政治性を帯びた芸術の概念についての議論をインタビューという形でまとめたジャック・ランシエールの「美の政治学」を講読しながら、2000年代の「国際展」について考えます。

アートと仕事

○アート界で仕事を始めるために1 出版(4月24日):柳下朋子(ARTiT編集部)／宮崎香菜(BT／美術手帖 編集部)

国内外のアート界の動向や議論を多くの人々に届けるアート系のメディア。その編集方針や仕事の内容、また職能の特徴について、具体的に解説します。

○アート界で仕事を始めるために2 ギャラリーと美術館(6月18日):永吉文子(SCAI THE BATHHOUSE)／西川美穂子(東京都現代美術館 学芸員)

アーティストや作品と直接関わりながら新たなアートを提案してゆく職業を、ギャラリストと美術館の学芸員の仕事をとおして紹介します。

○アート界のマッピング(10月1日):小澤慶介

アートの産業的な側面を、アート界の構造と運動をとおして考えます。アーティストやギャラリー、美術館以外にもさまざまな職能が集まって成立するアート界の今とこれからを議論します。

○コマーシャル・ギャラリーの仕事とマーケットの仕組み(2009年1月13日):小山登美夫(小山登美夫ギャラリー 代表)

展覧会の企画、アーティストの育成とプロモーション、アートフェアへの出展など、アートマーケットの動きとともに新たな表現を国内外に提案してゆくギャラリストの仕事を紹介します。

○アート界で仕事を始めるために3 インディペンデントという方法(2009年2月25日):遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター)

アートは、美術館やギャラリーに限られたものではなく、むしろさまざまな空間や地域を対象に成り立つものと考えられます。アートに特権的な場に所属しないでアートを追求する意味を考えます。

グローバル・スタディーズ

○ポスト-コロニアリズムと表象の実践(5月29日):小澤慶介

ポスト-コロニアリズム(植民地主義以降)における表象の問題に触れたドクメンタ11(2002)やそれ以降の展覧会を参考に、表象が抱えてしまう政治性と現代社会との関係について考えます。

○記憶へのまなざし(9月25日):小澤慶介

「取り上げられ」、「作られ」、「伝えられる」という現代の表象文化における「記憶」が、すでに政治的なものであるということを、具体的な作品やアートプロジェクトをとおして考察します。

○クレオールについて(11月13日):小澤慶介

もともと「混血」を意味し、現在では複数の文化の混成によって新たに生まれる文化を一般的に意味するようになった「クレオール」。リゾーム的あるいはノマド的な考え方から、現代の表象文化を考えます。

○群島的なものへ(12月11日):今福龍太(東京外国语大学大学院 教授)

奄美や琉球の島々、カリブ海の島々を参照に、群島の独特的な文化生成の歴史や成立背景、そしてその運動に注目します。「クレオール」の文化から、もう一つの「世界」を眺めてみる試みです。

○「地域」と「世界」をつなぐ仕組みを考える(2009年3月11日):北川フラム(アートフロントギャラリー 主宰／地中美术馆 総合ディレクター／新潟市美术馆 館長)

世界化が進んだ社会において、情報や交通、物流の網の目は、「地域」を「世界」へと容易に繋げます。そのようなシステムとアートの関係について、越後妻有アートトリエンナーレなどのプロジェクトをとおして考えます。

美はどこへ行った?

○「美」はどこから来た? (6月12日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

アリストテレスやプラトンなどが考えた「美」とはどのようなものだったのか? 芸術と美に関わる哲学的考察の起源を概観します。

○「美」と「崇高」(10月28日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

18世紀ドイツの哲学者、カントは、「判断力批判」で普遍的な「美」を認識する能力として「判断力」に注目しました。では、「判断力」とはどのようなものでしょうか。「美」と比較される「崇高」という概念とともに考えます。

○「美」という装置(11月11日):辻憲行(フリーランス・キュレーター)

20世紀フランスの哲学者、ミシェル・フーコーの装置概念を敷衍し、「美」を、社会をある方向へ仕向け、機能させる「装置」として捉え、広告から芸術はては政治的言説にいたるまで、「美」があふれる現代のさまざまな表象について考えます。

社会の変革とアート

○1990年代以降の関係性の美学(5月7日):ロジャー・マクドナルド

1990年代以降、表現形式として確立してきた観客参加型の作品。フランス人のキュレーターで批評家のニコラ・ブリオーは、それを「関係性の美学」と名づけました。そのような芸術の成立と社会変革の関係を分析・考察します。

○日常実践とキュレーション(9月17日):ロジャー・マクドナルド

フランスの哲学者、アンリ・ルフェーブルやミシェル・ド・セルトのテキストを参照しながら、スーツケースやストリートなどの空間におけるキュレーションの可能性について考察します。

○都市空間を読む(12月6日):塚本由晴(建築家／アトリエ ウン)／ロジャー・マクドナルド

つねに生産・再生産されている社会空間と建築の関係について注目します。空間に与えられている規律や規範などを一旦解体し、使い手や地域特性の視点から再構築する試みについて、建築やアートのプロジェクトをとおして考えます。

○現代のアートと政治、その可能性(2009年2月5日):ロジャー・マクドナルド

1917年のロシア革命とアートの実践から2000年にロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)で行われた展覧会「デモクラシー」まで、いくつかの具体例を参照し、現代のアートと社会の来るべき関係について考えます。

実践スキル

○展覧会の制作:企画書作成からファンドレイジングまで(7月3日):小沢有子／小澤慶介

展覧会やプロジェクトの意義を、社会一般に伝えてゆくための企画書と、その企画を具体的に動かす資金の集め方について、具体例を挙げながら説明します。

○デザインとコミュニケーション(7月17日):古平正義(アートディレクター)

展覧会や作品のコンセプトを表し、人々の目に留まり、手にとってもらい、会場へ足を運んでもらうためのDMやポスターなどのメディア。限られた予算で効果的な周知広報活動や観客動員を可能にするデザインに迫ります。

○展覧会や作品の記録ワークショップ(10月16日):木奥恵三(フォトグラファー)

作品や展覧会の記録のしかたについて、森美術館や金沢21世紀美術館などでの展覧会の記録写真撮影の実績から、基本的な考え方やアングルの取り方、照明に関する実用的な技術を実践しながら紹介します。

○展覧会評と批評の実践(2009年2月12日／2月26日):小澤慶介

美術史や哲学思想、あるいは現代社会の情勢と照らし合わせることにより、展覧会や作品は一般化され、その同時代的な意義が深まることがあります。現代アートを読み解く実践的トレーニングです。

アートと公共

○アーティスト・イン・レジデンスとコミュニティとの関わり方について(5月15日):遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター)

アーティストの招聘、滞在、作品制作・発表を行う国際的なアーティスト・イン・レジデンスプログラム、アーカス・プロジェクトと、ベッドタウンとして変容する地域との関係性をとおして、「アート」そして「地域」とは何かを考えます。

○公共性とは何か? (10月7日):毛利嘉孝(東京藝術大学 准教授)

「公共(パブリック)」とは何か? 戦争期のユダヤ系思想家アーレントから今日のハーバーマスまで「公共性」をめぐる思想史的議論を踏まえて、今日の芸術における「公共」について考察します。

○アートが地域に対してできること(2009年1月22日):藤浩志(美術家)

アートと「地域」の具体的な関わりについて、「コミュニケーション」、「仕組みづくり」、「持続性」をキーワードに、アーティストの視点から、いくつかのアートプロジェクトをとおして考察します。

○戦術的なアートのためのワークショップ—「公共」のコードを捉える(2009年2月7日):森弘治(アーティスト)

公共の空間を保障するさまざまなコード(規則)の表象を、デジタルカメラやビデオカメラなどの身近で機動性の高い機材を用いて意識的に撮り集め、「公共性」についてディスカッションを行います。

MADでは、「ニュー・メディアとアートの現在」、「絵画の歴史：近代から現代まで」、「ベンヤミンと都市、歴史、アート」、「アジアのアート：西洋の優位性は今後も続くのか？」、「写真を始めから考える」の、5つのテーマについて集中講座を開講します。各回3回のレクチャーによって構成され、レクチャーや議論をとおして、特定のテーマについて集中的に学ぶことができます。

○ニュー・メディアとアートの現在

2008年5月16日(金)19:00~20:30／5月17日(土)13:00~14:30、15:00~16:30

レクチャラー：ドミニク・チェン(ICC研究員／NPO法人Creative Commons Japan理事／Dividual.jp共同主宰)

インターネットの普及によってもたらされている社会変革は、芸術表現や創造性一般にどのような影響をもたらすのか？メディア・リテラシー、教育／学習、著作権といったキーワードを基点に、社会における既存の権力構造がどう変わりつつあるのかを確認します。そこから、メディア技術の進化を観察することによってネットワーク社会の芸術文化がどのような地平に向かっているのかという問題を、クリエイティブ・コモンズやWikipedia、その他多くのウェブ・プラットフォームといった具体的運動の側から考えていきます。

○絵画の歴史　近代から現代まで

2008年6月20日(金)19:00~20:30／6月21日(土)13:00~14:30、15:00~16:30

レクチャラー：保坂健二朗(東京国立近代美術館 研究員)

なぜ絵画はメジャーなのか？その状況は今後も変わらないのか？これらの疑問を念頭に置きながら、絵画の歴史を、クールベ、マネ以降、リヒター、タイマンス、杉戸洋までたどります。ここでの目標は、歴史の学習だけでなく、造形芸術における基本概念を確認し、1980年代のニュー・アートヒストリー以降の状況も視野に入れつつ、その分析方法を獲得することです。そうすることではじめて、「『絵画の歴史』の歴史」とでも言うべきものが浮かびあがり、冒頭に掲げた疑問に答えるためには必要な、隣接ジャンルとの比較も可能となるでしょう。

○ベンヤミンと都市、歴史、アート

2008年7月18日(金)19:00~20:30／7月19日(土)13:00~14:30、15:00~16:30

レクチャラー：毛利嘉孝(東京藝術大学 准教授)

ヴァルター・ベンヤミンは、20世紀前半に写真や映画のような新しいテクノロジーの芸術を論じたドイツの思想家ですが、グローバル化と情報デジタル化が進む近年、再び注目を集めています。彼の芸術や都市、歴史をめぐる議論は、どのようなものだったのでしょうか？そして、それらはどのような今日的意味を持っているのでしょうか？その著作と彼が論じた具体的な都市や芸術作品、そしてベンヤミン的な思想の末裔と位置づけられる最近の現代アートと現代思想を紹介・検討しながら、その思想の臨界点を改めて考えます。

○アジアのアート：西洋の優位性は今後も続くのか？

2008年10月17日(金)19:00~20:30／10月18日(土)13:00~14:30、15:00~16:30

レクチャラー：住友文彦(AIT)

中国における好景気の影響で、東アジアのアート・シーンが活況を呈しています。その一方で、アートを巡る批評や言説がアジアから内発的に起こっているとは言えません。むしろ、日本を含むアジアの地域では、伝統的な芸術とグローバルな市場を持つ「コンテンポラリー・アート」との二重性を抱え込んだままに見えます。アジアのアートには、今ある西洋中心に発達したアートを別の何かへと変容させていく力と契機があるのでしょうか？あるいは、資本と言説の力における西洋の優位は変わらないままなのでしょうか？中国や韓国における具体例を挙げながら受講生と一緒に考えます。

○写真を始めから考える

2008年10月31日(金)19:00~20:30／11月1日(土)13:00~14:30、15:00~16:30

レクチャラー：島山直哉(写真家)

「写真」は、技術の発展から、市場、そして新しい視覚言語の創造との不可分な関係性において、常に変化を余儀なくされている表現であると考えられるでしょう。19世紀の中頃に確立し、芸術と政治の間で揺れ動いてきた「写真」について、現代の写真家が考えます。客観的にもう一度考え方直し試みとして、ネガポジ式を発明したフォックス・トルボットの仕事を端緒に、写真の「始まり」と「終わり」、写真の客觀性の神話、デジタルテクノロジーの到来などのテーマに触れ、議論します。

現代アートを気軽に楽しみたい、あるいは現代アートの現場で活動する人々の声を聞き、アートを身近に感じてみたいと思っている方に向けた昼間に開講されるコースです。

一般の方を対象とし、レクチャーや現代アートの展覧会見学で構成される春・秋のコースと、アート界に関心のある学生を対象とし、レクチャーや議論をとおして、特定のテーマについて集中的に学ぶことができます。

春・秋コース　2008年5月・10月開講(毎週水曜)

現代アートをもっと楽しみながら、もう少し深く知ってみたいと思っている方を対象としたコースです。一見、難解に見える現代アートですが、作品や展覧会の成立背景にある「考え方」に注目してみると、思いのほか今の時代性を鋭く反映していたりして、表現されたものの意図に気づくものです。その「考え方」について、レクチャーや議論では、美術の歴史や現代社会の状況を解説しながら迫ります。また、展覧会見学では、現場で携わる人々の声や同行するコース・ディレクターの考え方、そして受講生の意見を交えながら議論をし、現代の多様化する表現についてより幅広くも深い理解を試みます。

全5回の構成：レクチャーアー3回＋美術館見学2回

レクチャーアー：

○現代アートとは？：現代アートの始まりはいつ頃？現代アートの定義はある？受講生の素朴な疑問に答える現代アートの入門的なレクチャーアーです。

○現代アートの現場：現代アートには、どのような人々が携わっている？アーティストからギャラリスト、キュレーターなど、現代アートを実際に動かしているさまざまな人々を紹介します。

○世界の現代アート：2007年はヨーロッパ。そして2008年はアジアの年と言われるほど、世界中で注目される現代アート。日本だけではなく、海外の状況を紹介します。

美術館見学：見学する展覧会は、初回のレクチャーアー時に発表されます。

夏コース　2008年7月開講

現代アート関係の仕事に興味はあるけれども、アート界がどのようにになっているのかよくわからない。現代アートの歴史をもう一度見直してみたい。これまで学んできたことが社会でどのように生かされるのか可能性を見極めたい。アート・オーディエンスの夏コースは、このような卒業後の進路を考える学生を対象としたものです。アーティスト、ギャラリスト、キュレーター、コーディネーターなど、アート界にはさまざまな職業がありますが、これから社会に出てよりよく活動してゆくためには、自分の能力とそれが生かされるフィールドがどのような仕組みになっているのかを知らなければならないといつてもいいでしょう。そのために必要な知識を紹介しながら、アート界と各職業の関係性について議論をします。

全4回の構成：レクチャーアー4回

○現代アートの「現代」を考える：現代アートというときの「現代」が意味する時代性について、社会学や哲学を参考に読み解く訓練をします。

○アート界の仕組み：現代アートの世界はどのようにになっていて、どのような人々が活動している？美術制度とアート界の構造について紹介します。

○ギャラリーとは？：商業的なギャラリーから、自主的に企画運営を行ってゆくオルタナティヴ・スペースまで、展覧会の場についてそれぞれの可能性を議論します。

○美術館とは？：絶えず変化・変容する美術館とそのプログラムを、国内外の具体例をとおして概観し、美術館の限界と可能性を議論します。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 |
|------------------------|---|---|--|--|
| キュレーション・プラクティス (実践) | 15日(火) 必修レクチャー1 日本における現代の文化政策 住友文彦 | 13日(火) 必修レクチャー2 キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 10日(火) 必修レクチャー4 展覧会の企画立案と管理進行について 小沢有子／小澤慶介 | 1日(火) 必修レクチャー5 キュレーターに求められる資質 長谷川祐子 |
| キュレーション・ベーシック (基礎) | 20日(火) 必修レクチャー3 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド | 27日(火) チュートリアル1 | 24日(火) チュートリアル2 | 15日(火) チュートリアル3 |
| アート＋コミュニケーション | 15日(火) 必修レクチャー1 日本における現代の文化政策 住友文彦 | 13日(火) 必修レクチャー2 キュレーションのマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 10日(火) 必修レクチャー4 展覧会の企画立案と管理進行について 小沢有子／小澤慶介 | 1日(火) 必修レクチャー5 キュレーターに求められる資質 長谷川祐子 |
| アーティスト | 20日(火) 必修レクチャー3 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド | 27日(火) 必修レクチャー3 キュレーションの歴史 ロジャー・マクドナルド | 5日(木) 必修レクチャー4 建築・都市・アート 五十嵐太郎 | 8日(火) プレゼンテーション1 |
| マガジン | 17日(木) 必修レクチャー1 現代アートとは何か？ ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 8日(木) 必修レクチャー2 20世紀の絵画 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 19日(木) 必修レクチャー5 写真と映像の歴史 杉田敦 | 10日(木) 必修レクチャー6 ビデオアートと視覚文化 小澤慶介 |
| フリー・ブロック | 22日(木) 必修レクチャー3 インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド | 22日(木) 必修レクチャー3 インスタレーション・アート ロジャー・マクドナルド | 14日(土) 必修クラス5 作品講評＋セミナー3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 28日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| | 12日(土) 必修クラス1 美術界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 10日(土) 必修クラス3 作品講評＋セミナー1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 11日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 3日(木) 実践スキル1 展覧会の制作：企画書作成からファンドレイジングまで 小沢有子／小澤慶介 |
| | 26日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 24日(土) 必修クラス4 作品講評＋セミナー2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 25日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 17日(木) 実践スキル2 デザインとコミュニケーション 古平正義 |
| | 16日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 14日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 3日(火) テキストを読む3 クレア・ビショップ「対立と関係性の美学」 ロジャー・マクドナルド | 17日(火) 実践スキル4 展覧会の制作：企画書作成からファンドレイジングまで 小沢有子／小澤慶介 |
| | 30日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 28日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 12日(木) 美はどこへ行った？1 「美」はどこから来た？ 辻憲行 | 17日(火) 実践スキル2 デザインとコミュニケーション 古平正義 |
| | 23日(水) テキストを読む1 ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に」 小澤慶介 | 1日(木) テキストを読む2 ダグラス・クリンプ「美術館の廃墟に」 小澤慶介 | 17日(火) テキストを読む4 クレア・ビショップ「対立と関係性の美学」 ロジャー・マクドナルド | 18日(水) アートと仕事2 アート界で仕事を始めるために2 ギャラリーと美術館 永吉文子／西川美穂子 |
| | 24日(木) アートと仕事1 アート界で仕事を始めるために1 出版 宮崎香菜／柳下朋子 | 7日(水) 社会の変革とアート1 1990年代以降の関係性の美学 ロジャー・マクドナルド | 18日(水) アートと仕事2 アート界で仕事を始めるために2 ギャラリーと美術館 永吉文子／西川美穂子 | |
| | 15日(木) アートと公共 アーティスト・イン・レジデンスとコミュニティーとの関わり方について 遠藤水城 | 15日(木) アートと公共 アーティスト・イン・レジデンスとコミュニティーとの関わり方について 遠藤水城 | | |
| | 29日(木) グローバル・スタディーズ1 ポストコロニアリズムと表象の実践 小澤慶介 | | | |

| | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|------------------------|--|---|---|--|
| キュレーション・プラクティス (実践) | 16日(火) チュートリアル4 30日(火) 必修レクチャー6 社会空間とキュレーション 小澤慶介 | 14日(火) 必修レクチャー7 変化するアートの現場 天野太郎 21日(火) チュートリアル5 | 4日(火) 必修レクチャー8 キュレーションの実践、美術館の内と外 飯田志保子 18日(火) チュートリアル6 | 2日(火) 必修レクチャー9 日本の戦後美術史とキュレーション 住友文彦 16日(火) チュートリアル7 |
| キュレーション・ベーシック (基礎) | 30日(火) 必修レクチャー6 社会空間とキュレーション 小澤慶介 | 14日(火) 必修レクチャー7 変化するアートの現場 天野太郎 | 4日(火) 必修レクチャー8 キュレーションの実践、美術館の内と外 飯田志保子 | 2日(火) 必修レクチャー9 日本の戦後美術史とキュレーション 住友文彦 9日(火) プレゼンテーション2 |
| アート＋コミュニケーション | 18日(木) 必修レクチャー9 オルタナティヴ・スペースの歴史 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 9日(木) 必修レクチャー8 地域を活性化するアートプロジェクト 木ノ下智恵子 23日(木) 必修レクチャー7 日本の文化政策とアート 吉本光宏 | 6日(木) 必修レクチャー10 展覧会と物語づくり ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 15日(土)※ 必修レクチャー11-1 パブリック・プログラム ワークショップ@東京都現代美術館 郷泰典 | 4日(木) 必修レクチャー12 アートとコミュニティー 池田修 |
| アーティスト | 27日(土) 必修クラス1 美術界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 11日(土) 必修クラス2 プレゼンテーション1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 25日(土) 必修クラス3 作品講評+セミナー1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 8日(土) 必修クラス4 作品講評+セミナー2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 22日(土) 必修クラス5 作品講評+セミナー3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 13日(土) 必修クラス6 プレゼンテーション2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| マガジン | 24日(水) 必修クラス1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 8日(水) 必修クラス2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 22日(水) 必修クラス3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 5日(水) 必修クラス4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 19日(水) 必修クラス5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 3日(水) 必修クラス6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| フリー・ブロック | 17日(水) 社会の変革とアート2 日常実践とキュレーション ロジャー・マクドナルド 25日(木) グローバル・スタディーズ2 記憶へのまなざし 小澤慶介 | 1日(水) アートと仕事3 アート界のマッピング 小澤慶介 7日(火) アートと公共2 公共性とは何か? 毛利嘉孝 16日(木) 実践スキル3 展覧会や作品の記録ワークショップ 木奥恵三 28日(火) 美はどこへ行った?2 「美」と「崇高」 辻憲行 | 11日(火) 美はどこへ行った?3 「美」という装置 辻憲行 12日(水) テキストを読む5 ミシェル・ド・セルトー「日常的実践のポエティック」 ロジャー・マクドナルド 13日(木) グローバル・スタディーズ3 クレオールについて 小澤慶介 27日(木) テキストを読む6 ミシェル・ド・セルトー「日常的実践のポエティック」 ロジャー・マクドナルド | 6日(土) 社会の変革とアート3 都市空間を読む 塙本由晴 11日(木) グローバル・スタディーズ4 群島的なものへ 今福龍太 |

| | | |
|--|--|--|
| 2009年1月 20日(火) チュートリアル 8 | 2009年2月 17日(火) チュートリアル 9 | 2009年3月 24日(火) チュートリアル 10 |
| キュレーション・プラクティス(実践) 27日(火) 必修レクチャー 10 国際展の現在 南條史生 | 24日(火) 必修レクチャー 11 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 17日(火) 必修レクチャー 11 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| キュレーション・ベーシック(基礎) 27日(火) 必修レクチャー 10 国際展の現在 南條史生 | 24日(火) 必修レクチャー 11 知識の生産と展覧会 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 17日(火) プレゼンテーション 3 |
| 10日(土) 必修クラス 1 美術界のマッピング ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 14日(土) 必修クラス 3 作品講評+セミナー 1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 14日(土) 必修クラス 5 作品講評+セミナー 3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| アーティスト 24日(土) 必修クラス 2 プレゼンテーション 1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 28日(土) 必修クラス 4 作品講評+セミナー 2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 28日(土) 必修クラス 6 プレゼンテーション 2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| 7日(水) 必修クラス 1 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 4日(水) 必修クラス 3 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 4日(水) 必修クラス 5 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| マガジン 21日(水) 必修クラス 2 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 18日(水) 必修クラス 4 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 | 18日(水) 必修クラス 6 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| 13日(火) アートと仕事 4 コマーシャル・ギャラリーの仕事とマーケットの仕組み 小山登美夫 | 5日(木) 社会の変革とアート 4 現代のアートと政治、その可能性 ロジャー・マクドナルド | 10日(火) テキストを読む 9 ジャック・ランシエール「美的政治学」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| 15日(木) テキストを読む 7 オクワイ・エンヴェゾー「作り、あるいは『場違い』な場に： コンテンポラリーアートとポストコロニアルな状況」 小澤慶介 | 12日(木) 実践スキル 4 展覧会評と批評の実践 1 小澤慶介 | 11日(水) グローバル・スタディーズ 5 「地域」と「世界」をつなぐ仕組みを考える 北川フラン |
| フリー・ブロック 17日(土) アートと公共 4 戦術的なアートのためのワークショップ 「公共」のコードを捉える 森弘治 | 25日(水) アートと仕事 5 アート界で仕事を始めるために 3 インディペンデントという方法 遠藤水城 | 19日(木) テキストを読む 10 ジャック・ランシエール「美的政治学」 ロジャー・マクドナルド／小澤慶介 |
| 22日(木) アートと公共 3 アートが地域に対してできること 藤浩志 | 26日(木) 実践スキル 5 展覧会評と批評の実践 2 小澤慶介 | |
| 29日(木) テキストを読む 8 オクワイ・エンヴェゾー「作り、あるいは『場違い』な場に： コンテンポラリーアートとポスト-コロニアルな状況」 小澤慶介 | | |

ロジャー・マクドナルド[コース・ディレクター]

1971年生まれ。イギリスのケント大学にて宗教学修士課程修了後、美術理論にて博士号を取得。1998年より、インディペンデント・キュレーターとして、国内外で数々の小規模な展覧会を企画。「横浜トリエンナーレ2001」では、南條史生氏のアシスタント・キュレーターとして、また、2006年の第一回「シンガポールビエンナーレ2006」では、キュレーターとして活動。興味の対象は幅広く、キュレーションの歴史、特権的なアートスペース以外で行われるインディペンデントなキュレーションの可能性の研究のほか、キュレーションと社会政治研究のための個人的なアーカイブ作りに取り組む。低予算で社会に介入してゆくインディペンデントな動き「タクティカル・キュレーティング(tactical curating)」を調査するウェブログ「タクティカル・ミュージアム(The Tactical Museum)」を主宰。<http://www.rogermc.blogs.com/tactical/> アートスケープ・インターナショナルに展覧会評を執筆中。武蔵野美術大学非常勤講師。多摩美術大学非常勤講師。

小澤慶介[コース・ディレクター]

1971年生まれ。ロンドン大学ゴールドスミスカレッジにて美術史の修士号を取得。これまでに、世界化する社会における「記憶」や「空間」、「身体」などの問題にアプローチしたビデオアートのグループ展「your memorabilia 記憶へのまなざし」(東京国際フォーラム／2003)、「paradise views 楽園の果て」(東京国際フォーラム／2004)、「dreaming bodies 夢みる身体」(アサヒ・アートスクエア／2005)などを企画。AITにおいては、「16時間美術館」(ヒルサイドテラス、AIT、スーパー・デラックスほか／2007)や「おきなわ時間美術館」(那覇市栄町市場古民家ほか／2007)など、時間限定の実験的な展覧会の企画・制作指揮などを行う。後期近代あるいはポスト・コロニアルな時代における文化の様態とその表象、とりわけ琉球などの島嶼文化の表象や生成に関心を寄せている。アートフェア東京アソシエイト・ディレクター。慶應義塾大学非常勤講師。

住友文彦[レクチャラー]

1971年生まれ。東京都現代美術館学芸員。韓国、中国、日本のアーティストが参加した「アウト・ザ・ウインドウ」展(国際交流基金アジアセンター／2004)、戦後の美術から最新の動向までを取り組みを取り上げた「Possible Futures:アート&テクノロジー過去と未来」展(ICC／2005)を企画。また、日本の現代美術を紹介する展覧会として「Rapt!: 20 contemporary artists from Japan」展(オーストラリア／2006)、「美麗新世界」(中国／2007)の企画にも関わる。2008年は「川俣正【通路】」展(東京都現代美術館)やαMプロジェクト(武蔵野美術大学)のキュレーションを手掛ける。リクリット・ティラヴァニヤに関する「身体の贈与」(共著『表象のディスクール6 創造』、東京大学出版会、2000年)、「映像の中へ」(『21世紀の出会い? 共鳴、ここ・から』、金沢21世紀美術館、淡交社、2004年)、「複雑で便利な時代と見えなくなるアート」(共著『21世紀における芸術の役割』未来社、2006年)などの論考がある。

中森康文[レクチャラー]

近代・現代美術史教育家、及びニューヨーク州弁護士。ニューヨーク市を基点として、現代美術、なかでも写真と建築及び社会思想に焦点を充てた展覧会を企画。畠山直哉や石川真生の米国における初個展を企画する。現在ニューヨーク近代美術館教育部の講師として、成人教育プログラムの作成及び実施に従事する。著作には、日本現代美術建築に関するものに加えて、著作権に関するものがある。2008年4月よりヒューストン美術館(Museum of Fine Arts Houston)写真部のキュレーターに就任。早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、米国ウィスコンシン大学ロースクール卒業(法律博士)。現在米国コーネル大学美術史博士候補(博士論文は日本の1960年代の建築家美術家間のコラボレーションと社会思想の関係について)。

小沢有子[マネージング・ディレクター、レクチャラー]

学習院大学法學部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジョウアンドアソシエイツにて「イタリア現代美術1945-1995」展、「大林組コーポレートアートプロジェクト」、「サンパウロビエンナーレ2002」など国内外の展覧会やアートプロジェクトのコーディネート、コンサルタント、マネージメントを担当。2002年、仲間と共にNPO法人アーティニシアティヴトウキョウを立ち上げ、代表に就任。AITでは、レジデンスとMADを中心とした活動全体の企画やマネージメントに携わり、芸術文化に関わる基盤作りや、アーティスト支援に取り組む。MADでは、こうした経験をふまえ、マネージメントや組織運営に関する講義を行う。

肥田暁子[スタッフ]

学習院大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。1998-99年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ留学。2003年MADのキュレーションコース修了後、AITのスタッフに加わる。「アート・スコープ」(原美術館／2004、2005、2006年、2008年)などの展覧会や、シンガポールビエンナーレ2006日本事務局(2006年)、AITアーティスト・イン・レジデンス・プログラム(2003年～)などのプロジェクトをはじめとして、多岐にわたるAITの活動全般のコーディネーションを行う。

宮原洋子[サポート]

慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史専攻卒業。1995-2002年ナンジョウアンドアソシエイツにおいて、国際美術評論家連盟(AICA)日本大会事務局、「横浜トリエンナーレ2001」における120名余の制作ボランティアのコーディネート、MADの立ち上げ等に携わる。2002年開館準備段階より森美術館に勤務。南條史生館長の秘書として現在に至る。

※掲載している情報は2007年12月現在のものです。

天野太郎(横浜美術館 主席学芸員)

飯田志保子(東京オペラシティアートギャラリー キュレーター)

五十嵐太郎(建築評論家)

池田修(BankART1929代表)

今福龍太(東京外国语大学大学院 教授)

遠藤水城(アーカス・プロジェクト ディレクター)

木奥恵三(フォトグラファー)

北川フラン(アートフロントギャラリー 主宰／地中美术馆 総合ディレクター／新潟市美术馆 館長)

木ノ下智恵子(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター 特任講師／神戸アートビレッジセンター 美術プロデューサー)

郷泰典(東京都现代美术馆 教育普及係 学芸員)

古平正義(アートディレクター)

小山登美夫(小山登美夫ギャラリー 代表)

杉田敦(美術批評家／女子美術大学 准教授／オルタナティブ・スペースart & river bank ディレクター)

塚本由晴(建築家／アトリエ ワン)

辻憲行(フリーランス・キュレーター)

永吉文子(SCAI THE BATHHOUSE)

南條史生(森美术馆 館長)

西川美穂子(東京都现代美术馆 学芸員)

長谷川祐子(東京都现代美术馆 事業企画課長)

藤浩志(美術家)

宮崎香菜(BT／美術手帖 編集部)

毛利嘉孝(东京藝術大学 准教授)

森弘治(アーティスト)

柳下朋子(ARTiT 編集部)

吉本光宏(ニッセイ基礎研究所)

集中講座 ゲスト・レクチャラー

ドミニク・チェン(ICC研究員／NPO法人Creative Commons Japan理事／Dividual.jp 共同主宰)

保坂健二朗(東京国立近代美術館 研究員)

毛利嘉孝(东京藝術大学 准教授)

畠山直哉(写真家)

キュレーション・プラクティス(実践)[12ヶ月]

期間 2008年4月15日(火)～2009年3月24日(火)
 フリー・ブロック 25回(選択制)
 時間 19:00～21:00
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 12人
 費用 229,950円(税込)[受講料200,000円+施設維持費2,000円+資料費15,000円+選考費2,000円]
 受講資格 申込書とインタビューによる選考あり。

キュレーション・ベーシック(基礎)[12ヶ月]

期間 2008年4月15日(火)～2009年3月17日(火)
 フリー・ブロック 20回(選択制)
 時間 19:00～21:00
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 201,600円(税込)[受講料180,000円+施設維持費2,000円+資料費10,000円]
 受講資格 特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、選考あり。

アート＋コミュニケーション[前期:4ヶ月／後期:4ヶ月]

期間 前期:2008年4月17日(木)～2008年7月10日(木)
 後期:2008年9月18日(木)～2008年12月4日(木)
 フリー・ブロック 前期、後期の各10回(選択制)
 時間 19:00～21:00
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 (前期、後期の各回)20人
 費用 79,800円(税込)[受講料74,000円+施設維持費2,000円]〈各回〉
 受講資格 特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、選考あり。

アーティスト[3ヶ月]

期間 春 2008年4月12日(土)～2008年6月28日(土) 第2・4 土曜日
 秋 2008年9月27日(土)～2008年12月13日(土) 第2・4 土曜日
 冬 2009年1月10日(土)～2009年3月28日(土) 第2・4 土曜日
 フリー・ブロック 各回3回(選択制)
 時間 14:00～16:00
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 各回12人
 費用 38,850円(税込)[受講料35,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。ただし、定員を大幅に超える場合、インタビューによる選考あり。

マガジン[3ヶ月]

期間 春 2008年4月16日(水)～2008年6月25日(水) 隔週水曜日
 秋 2008年9月24日(水)～2008年12月3日(水) 隔週水曜日
 冬 2009年1月7日(水)～2009年3月18日(水) 隔週水曜日
 フリー・ブロック 各回3回(選択制)
 時間 19:00～21:00
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 各回12人
 費用 36,750円(税込)[受講料33,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。ただし、定員を超える場合選考あり。

※8月と9月の一部は休講です。※上記は必修レクチャーの期間です。※フリー・ブロックの日程はP14-P19でご確認ください。

集中講座[2日間]

[1]「ニュー・メディアとアートの現在」 レクチャラー:ドミニク・チェン(ICC研究員/NPO法人Creative Commons Japan理事/Dividual.jp共同主宰)
 期間 2008年5月16日(金)、17日(土)の2日間
 時間 19:00～20:30[5月16日(金)]、13:00～14:30／15:00～16:30[5月17日(土)]
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 14,700円(税込)[受講料12,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

[2]「絵画の歴史 近代から現代まで」 レクチャラー:保坂健二朗(東京国立近代美術館 研究員)
 期間 2008年6月20日(金)、21日(土)の2日間
 時間 19:00～20:30[6月20日(金)]、13:00～14:30／15:00～16:30[6月21日(土)]
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 14,700円(税込)[受講料12,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

[3]「ベンヤミンと都市、歴史、アート」 レクチャラー:毛利嘉孝(東京藝術大学 准教授)

期間 2008年7月18日(金)、19日(土)の2日間
 時間 19:00～20:30[7月18日(金)]、13:00～14:30／15:00～16:30[7月19日(土)]
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 14,700円(税込)[受講料12,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

[4]「アジアのアート:西洋の優位性は今後も続くのか?」 レクチャラー:住友文彦(AIT)

期間 2008年10月17日(金)、18日(土)の2日間
 時間 19:00～20:30[10月17日(金)]、13:00～14:30／15:00～16:30[10月18日(土)]
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 14,700円(税込)[受講料12,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

[5]「写真を始めから考える」 レクチャラー:畠山直哉(写真家)

期間 2008年10月31日(金)、11月1日(土)の2日間
 時間 19:00～20:30[10月31日(金)]、13:00～14:30／15:00～16:30[11月1日(土)]
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 14,700円(税込)[受講料12,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

講義内容と日程は、変更される場合があります。その場合は事前に告知されます。原則として、申し込みが受理された後のキャンセル・返金は受け付けません。定員に達した場合はお断りする場合があります。

デイタイム講座:アート・オーディエンス[1ヶ月]

[1]春コース
 開講日 2008年5月14日(水)、5月21日(水)、5月28日(水)、6月4日(水)、6月11日(水)
 時間 13:00～14:30
 場所 AITルーム(代官山)ほか都内美術館
 定員 20人
 費用 23,100円(税込み 展覧会入場料込み)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

[2]夏コース

開講日 2008年7月15日(火)、16日(水)、22日(火)、23日(水)
 時間 13:00～14:30
 場所 AITルーム(代官山)
 定員 20人
 費用 12,600円(税込み)[受講料10,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 専門学校生、大学生、大学院生。

[3]秋コース

開講日 2008年10月1日(水)、10月8日(水)、10月15日(水)、10月22日(水)、10月29日(水)
 時間 13:00～14:30
 場所 AITルーム(代官山)ほか都内美術館
 定員 20人
 費用 23,100円(税込み 展覧会入場料込み)[受講料20,000円+施設維持費2,000円]
 受講資格 特になし。

お申し込み方法

AITのホームページよりお申し込みください、下記問い合わせ先まで、お名前、ご住所、ご連絡先(電話、ファックス、携帯電話など)を明記の上、メールにて申込書をご請求ください。各コースの受講生募集期間と地図は、ホームページをご参照ください。
 なお、MADオープンデー(MADのコースについての説明会)を以下の日程で開催予定です。お申し込み希望の方は、件名を「○月○日MADオープンデー参加希望」とし、住所、氏名、電話番号、興味のあるコース名を明記したメールを、office@a-i-t.netまでお送りください。折り返し確認メールを送付いたします。

MADオープンデー

<2008年度全コース説明会>
 2008年1月25日(金)19:00～20:30／2008年2月15日(金)19:00～20:30／2008年3月7日(金)19:00～20:30

<2008年度秋・冬コース説明会>

秋コース説明会 2008年7月11日(金)／8月29日(金)19:00～20:30

冬コース説明会 2008年11月28日(金)19:00～20:30

問い合わせ先

特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT／エイト]

〒150-0033 東京都渋谷区猿楽町30-3 ツインビル代官山A502

Tel: 03-5489-7277 Fax: 03-3780-0266 E-mail: office@a-i-t.net http://www.a-i-t.net

40代／男性 2003年アーティスト

受講時：現代美術家

現在：現代美術家

福岡県北九州市から東京へ3ヶ月間通うのは大変でしたが、人と人との関係の中で展覧会や美術ができていくという重要な事実に気付くことができ、価値ある時間を過ごせました。

20代／女性 2002年キュレーター

受講時：学生

現在：コロンビア大学アーツ・アドミニストレーション修士課程在籍

MADを受講して一番良かったと思うことは、アート界で活躍している様々な方と、実際にお会いする機会が増えたことです。受講後の今でも、こうしたつながりは、すばらしい形で続いています。

20代／女性 2003年、2004年マガジン、2004年キュレーション・インテンシヴ

受講時：会社員

現在：エジンバラ芸術大学アートプロジェクト・コーディネーター

MADでのインターナショナルな授業は、その後のUKへの留学、そして今でも私をアートへと向かわせてくれる大切な基盤となっています。

20代／男性 2004年キュレーション、2004年・2006年クリティカル・リーダーズ

受講時：会社員

現在：TAB <http://www.tokyoartbeat.com/>／101 Tokyo共同設立者 <http://www.101tokyo.com>

会社員のスケジュールにも合った形で、コンテンポラリーアートについて、先生と生徒という旧来の枠組みではなく、もう少しフラットな関係の中で、「学ぶ」というよりも「創り出していく」という姿勢を身につけることができた。

30代／女性 2002年キュレーション

受講時：学生

現在：東京都現代美術館 学芸員

授業では毎回、知的興奮で脳が発火しているかのようになった。私にとって何ものにもかえがたいのは、MADで学び、そこでさまざまな人に出会ったことで、アートに対してポジティブな信念を持つことができるようになったことである。

20代／男性 2004年キュレーション

受講時：アルバイト

現在：アートプロデューサー／ライター

MADの授業で、型にはまらない様々なキュレーションの事例に触れることができたことは、受身でなく自ら仕事をつくり出す努力をしたり、小規模・趣味的でも面白いプロジェクトを行っていくという現在の自分のスタイルにつながっていると思う。

30代／女性 2003年キュレーション

受講時：アルバイト

現在：SCAI／白石コンテンポラリー／アート

ギャラリースタッフとして、今の自分の立ち位置から何かクリエイティブにおもしろいことはできないかという思いを持って仕事を楽しむことができるるのは、MADで培った、「アートを通して社会と主体的に関わるというスタンス」と、さまざまなネットワークおかげだと思います。

20代／女性 2004年キュレーション・インテンシヴ

受講時：会社員

現在：BankART1929スタッフ

MADの授業で行ったグループワークショップで、メンバーと意見交換を行いながら完成させた経験から、仕事は一人で完結するのではなく、多くの人と連携し巻き込んでいくことで、広がりや奥行きが生まれるということを学びました。

30代／女性 2007年キュレーション・プラクティス

受講時：ギャラリー／アルバイト

現在：社団法人企業メセナ協議会

MADは、アートのみならずさまざまなことを考えるきっかけを常に提供してくれる場でした。レクチャーや専門性の高いフリー・ブロックをとおして、多角的な視点からものごとを考えられるようになり、仕事や生き方の幅も拡がったように思います。

40代／男性 2007年アート＋コミュニケーション（前期）

受講時：地方公務員

現在：地方公務員

アートと社会についての基礎的な講義に加え、関心のある分野についてフリー・ブロックや特別講座で更に知識を深めることができました。他の受講生の方とギャラリー等で偶然お会いすることも多く、旧交を温めつつ情報交換をしています。

50代／女性 2006年マガジンコース、2007年アート＋コミュニケーション（前・後期）、キュレーション・ベーシック（基礎）

受講時：ファン・マネージャー

現在：ファン・マネージャー

MADの授業をとおしてアートのみならずカルチュラル・スタディーズや現代思想・哲学にも興味を持つようになりました。また、国内外のアーティストやキュレーターとの出会いをとおしてアートプロジェクトにかかわったことは、今後キュレーション関係の仕事を行ってゆく上で貴重な経験となっています。

60代／男性 2007年「アート＆コミュニケーション」（前・後期）

受講時の職業：無職／美術館でのボランティア・ギャラリー・ガイド

現在の職業：無職／美術館でのボランティア・ギャラリー・ガイド

アートについて「何でも見てやろう精神」でこのコースを受講しましたが、講義や講師、また一緒に受講した仲間も、いずれも刺激的で貴重なものでした。

また、これまであまり縁のなかった「哲学」に、MADの講義をとおして興味を持ちました。

MAD受講生のデータ

学生／学生以外の比率：学生 30%、学生以外 70%

年齢層：19才～82才まで（20代後半～30代の方が最も多い）